

平成23年度「重点研究費」研究成果報告書

申請区分	C	配分額	150,000 円
研究課題	地方国立大学における地域貢献型の附属アーカイブ・ミュージアムに関する基礎的研究		

研究代表者

氏名	所属	職名
君塚 仁彦	総合教育科学系教育学講座	教授

研究分担者

氏名	所属	職名

【研究成果の概要】 (文字の大きさ9ポイント・字数800字～1600字)

本研究では地方国立大学における地域貢献型の附属アーカイブ・ミュージアムに関する実地調査を行い、各大学で展開されている特色ある活動と背景を考察することに主眼を置いた。

最初に、南西日本の国立大学で地域密着型の活動を展開している琉球大学資料館「風樹館」の展示視察、地域貢献活動の調査を行った。調査に際しては、同館運営委員である琉球大学法文学部の池田栄史教授らから助言を受け、また同館学芸員佐々木健志氏に地域貢献活動現場での聞き取り調査を実施した。大学周辺地域にあるさまざまな学校との連携活動が大学博物館だけが貢献するという形ではなく、時間をかけて教員との協力のもとに作られてきた「人と人」との繋がりを基礎に展開されている点が特色である。

東日本大震災で被害を受けた東北地域では、大学博物館活動を積極的に展開する東北大学・岩手大学を調査対象にした。東北大学では、同大学が有する大学史アーカイブ(公文書館)でありミュージアムでもある東北大学史料館を訪問し、地域への社会貢献活動とアーカイブとしての運営実態に関する調査を実施した。大学アーカイブ機能に関する調査にあたっては同史料館の永田英明准教授から聞き取り調査を行ったが、大学史資料だけではなく地元の公立博物館では収集しきれない同大学ゆかりの地域資料を収集する役割を果たしている。

東北大学では青葉山キャンパスにある学術総合博物館も調査したが、同館では、帝国大学時代以来の、膨大な数量に及ぶ理学系・工学系研究資料などを保存管理・展示公開している。東北地域の知の拠点の一つとして、また大学開放のためのツールのひとつとして、盛んに地域への貢献活動を展開していることが分かった。公開講座だけではなく、一般向けの教育的な工夫が凝らされた展示、地域住民向けの教育普及活動についても有用で効果的なプログラムが多数実施されている。大学アーカイブについては、前回調査した東北大学史料館と保存管理・公開について役割分担をしているものの、連携体制について明確にはシステム化されていない。

岩手大学では、岩手大学ミュージアムを訪問し、地域への社会貢献活動とアーカイブの保管実態に関する調査を実施した。同館は旧盛岡農業専門学校の跡地を利用する岩手大学上田キャンパス全体をミュージアムに見立て、宮沢賢治も学んだ重要文化財の教育参考館などを中心に活動を展開しているが、主に地域貢献の観点から盛んに活動が展開されている。

展示については、岩手大学各学部における研究の地域への貢献、産学協同などの事例が展開されており、展示解説ボランティア活度などを通じて地域住民との連携も盛んに行われている。同大学で保管されている歴史的に貴重なアーカイブについては附属図書館と協力しながら保存活動が進められている。膨大な数量に及ぶ理学系・工学系研究資料などを保存管理しつつも、地域住民や一過性の観光見学者をも念頭に置いた、さまざまな工夫を凝らした展示や多様な教育プログラムが用意されている。地域社会への貢献であると同時に、地域社会と共生し発展を続けていく理念と方向性が明確である。中規模の地方総合大学ではあるが、地域密着型活動の大きな可能性を感じることもできる事例である。

いずれも、東京学芸大学大学史資料室、また将来の東京学芸大学附属博物館設置に向けて大いに参考になる事例であるが、本研究を通じて、知の公開拠点という側面と同時に、大学博物館における地域住民との協力関係を媒介にした人的貢献活動の重要性がカギであることが明らかになった。また、一部関係者の努力だけではなく、博物館やアーカイブ機能を通じた地域生涯学習への参画という意識を、大学側が明確に持てるのか否かが、成否を分ける大きなポイントになると思われる。

研究成果発表方法

東京学芸大学紀要・総合教育科学系に投稿予定。